小学校国語教科書の言語使用に見られる朝鮮半島の南北言語相違の現象

――言語形式の差異の具体的な様相――

SOONHEE FRAYSSE-KIM

Morphological Differences between North and South Korean Languages as Reflected by Korean Primary School Textbooks

Almost half a century has elapsed since the end of the Korean war, effectively dividing the peninsula into two countries. Since then, South Korea and North Korea (we will refer to them as SK and NK respectively) have developed their own socio-cultural environment in quasi-total isolation from each other. From the 1990s, in SK, thanks to the policy of reconciliation with NK implemented by President Kim Dae Jung's government, the so-called [North Korea Study] Program, that is to say, studies on every aspect of North Korean society, is actively carried out by South Korean scholars. The study of linguistic differences between the two Koreas appears to be one of the most active research domains. A series of studies making linguistic comparisons between the two languages revealed the existence of differences in language use. However, few studies providing information about concrete aspects of these differences based on factual evidence have been available so far. The purpose of this paper is to shed some light on concrete aspects of linguistic differences appearing in primary education textbooks used in the two countries. The question will be analyzed through two domains: language form and language use. In this issue, differences appearing in language form, in other words, morphological differences will be exposed. As for the differences emerging from language use, they will be dealt with in the next issue of this journal.

はじめに

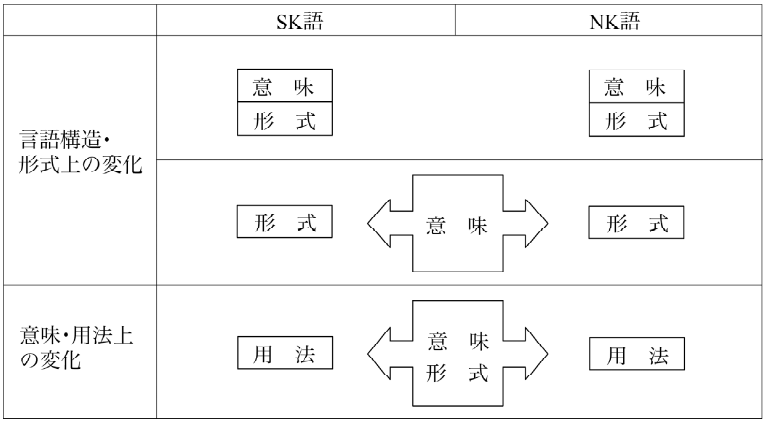
朝鮮半島が分断されて半世紀になる。その間，大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国（以後 SK，NK）は，ほぼ完全隔離の状態で，それぞれ独自の社会・文化を発展させて来た。1990年代に入ってから，韓国では現政権の和解的な対北政策の影響によって社会文化全般にわたって，いわゆる「北韓研究」が盛んに行われている。言語研究はそのなかでも最も活発に研究されている分野である。しかし SK・NK 言語の比較に関する一連の研究は，両側の言語に相違があることを明らかにしたものの，実際の言語使用の現場でどんなことばがどのように変化しているかなどの具体的状況はあまり知られていない。

我々は，小学校の国語教科書という一つの言語使用の現場に焦点をあて，そこで現れる両者間の言語格差の諸様相を観察することを通じて，朝鮮半島の言語相違現象の一面を具

体的に把握することをその目的とする。

SK・NK の間の言語格差は下の表で見られるように，言語構造の変化（語彙の構造的，形態的格差）と語の使用上の変化（意味･用法の変化）の二つの面で捉えることができる。

表１：SK・NK の言語格差の様相



言語の構造・形式的変化は両者の間の言語規範の差異がもたらす語形の相違，そして各社会の必要によって生じる新造語などがその主原因をなす。

意味・用法上の変化は，語の本来的意味と形式は同じであるが，それぞれの側で意味修正や意味添加が起こったり，語の使い方が異なっている現象を示す。これは両者の社会の生活像の格差が，その主原因であると考えられる。

本稿では言語形式上の変化の側面だけを扱うが，両者の教科書言語でみられる言語使用上の変化に関しては本論集の次回に発表する予定である。

本稿では，まず分断以前の朝鮮半島の言語事情の歴史的背景を概観してからブリギッテ・シューリベン＝ランゲ（1996）の言語共同体の理論を基に朝鮮半島での二つの言語共同体の形成の可能性を議論する。それから言語相違の直接・間接的要因とみなされる政治・社会的背景，両国の言語政策や教科書政策などを比較する。次に，両者間の言語格差を扱った幾つかの先行研究を概観する。最後に SK・NK の小学校国語教科書の言語で見られる言語形式上の変化を具体的な例をとりあげながら論議する。

１．朝鮮半島の言語事情

朝鮮半島の人々が話す言葉は韓国語[1]であり，韓国語を表記する文字体系はハングルである。韓国語は朝鮮半島の人々が経た歴史的変化とその運命を共にしてきた。

朝鮮半島の人々が固有の文字を持っていなかった昔，彼らは中国の文字を借りて記録し

ていた。つまり，韓国語で話して漢文で書く，言語の二重生活を数千年間営んでいた。このような状態は「必然的に漢文の要素が韓国語に大量に浸透する結果をもたらし，中国語固有の抽象的概念から山，江などの具体的な対象を表す単語まで漢字語の借用が生じていた。このことは今日，漢字語が韓国語の語彙のかなりの部分[2]を占めるようになった原因でもある」（リ・ビョンヒョク1998：18）と言われている。

韓国語を書くため最も適格な文字体系であるハングル〔当時の名前は訓民正音（フンミンジョンウム）〕が創製されたのは15世紀中頃である。しかし，初期のハングルの使用者は子供や婦女子などのいわゆる漢文の無識層に留まっていた。

ハングルが公用文字となり，韓国語が公用語になったのは，19世紀末のことであり，この時からハングルと韓国語は本格的に学問的研究対象になったと言われる。当時の国語学界の先駆者として活躍したのはジュ・シキョンである。彼は1908年「国語研究学会」を創立して韓国語文研究の基礎を作った。また，韓国語の文字に「ハングル」という現在の名前を付けたのも彼である。

現在，SK・NK で使用されるハングルの綴字法の根幹をなすのは，1933年彼によって定められた「ハングル綴字法統一案」である。分断以後の SK・NK を問わず国語研究に大きな貢献をした学者たちの大多数が彼の弟子であったと言われる（ゴ・ヨングン1999から参照）。

20世紀に入ってから，韓国語は前代未聞の危機に直面するようになる。1910年，国が日本に植民地化されてから，韓国語も日本語に国語の位置を奪われてしまい，地域語としての「朝鮮語」に転落されてしまったのである。1930年代の後半からは，その「朝鮮語」までも学校教育から廃止される。間もなく日常生活での韓国語の使用も徹底的に禁止される，いわゆる言語抹殺政策[3]が行われるようになった。韓国の国語学者達は，この時期を「わが国語の最大の受難期」（リ・ビョンヒョク ibid.：19）と呼んでいる。

植民地政府による言語同和政策に最も積極的に用いられたのは，官公立の学校教育であったと言われる。その反面，日本語による言語侵食に対する抵抗の原動力をなしたのは，非圧迫民衆の民族意識であって，このような民族意識を育て上げる中心役割の一つを果たしたのが，私立学校や書房という地方の私立教育施設であった。このような私立教育施設では，韓国語が全面使用廃止された以後も朝鮮の言葉と文字が隠れて教えられた（リ・ビョンヒョク ibid.：68–81 参照）。

母語教育を通じて，国民に愛国心や独立の意志を教える，いわば民族意識を覚醒させようとしたのである。韓国語はレジスタントの言語であった。

他民族に支配された恥辱の経験は，現在，朝鮮半島の人々の民族意識を高揚させる原動力になっていて，このような民族的自覚は朝鮮半島の人々が一般的に持っている「我が国」「我が民族」「我が言葉・文字」についての強い愛着として現れている。このような傾向は，現在の両国の国語教科書の言語使用においても共通に現われている。「우리 uri（我々，我が）」という言葉が「나라 nara（国）」「말 mal（言葉）」「민족 minjok（民族）」「조국 joguk

（祖国）」と共起する割合は「우리 uri（我々，我が）」との共起語の延べ語数の25％（NK），30％（SK）を占めている。特に，「우리 uri（我々，我が）」と「나라 nara（国）」の共起関係の強さを示す「相互情報量」（杉浦2000）は NK：6.54，SK：6.52で両者がほぼ同じである。

また，植民言語政策が「現在韓国の言語純化運動（3．言語政策参照）の重要な要因の一つ」をなすのも，SK・NK の共通的状況であると言われる（Park 1989：115）。

朝鮮半島は，第 2 次世界大戦の終戦とともに日本から独立してまもなく，戦勝国であった米・ソ連の対置の間に挟まれ，資本主義 vs. 共産主義のイデオロギー対立によって分断されてしまう。

そして，国土の分断と共に言語集団も二つに分けられた。以後，各言語集団で各々の目的によって行われた言語政策や住民生活様相の相違によって，両側の間の言語格差は大きくなりつつあると思われる

今度は，韓国語は 2 種類の言葉に分割される危機に直面したのである。

ブリギッテ・シューリベン＝ランゲは，言語共同体について語る際，スカンジナビアの国々の間に言語的相違がわずかにもかかわらず，人々は互いにコミュニケーションができないのは，各国がそれぞれ別の言語共同体に属しているためであると指摘した。そして，「言語共同体は政治的経済的文化的な一体性にささえられていて，言語共同体のなかで生活を相ともにすることで，一個の言語としての独自性が固まっていき，同時に，あらたな傾向もひろまっていく，それがついには言語共同体の境界をなすにいたる」と述べている。また，「ある言語共同体への帰属感には，強烈な集団帰属感がともなうのであり，外部のアイデンティティにたいし防壁を築く」ことで「理解しない形態という外側にたいする障壁設定がおこる」のである（シューリベン＝ランゲ 1996：142–143）。

ランゲの言語共同体の概念は，政治社会的分離によって異なった生活集団が形成されると，その集団内の言語使用にある独自性が生じ，その状態が長期化するとある特定の言語的集団が形成されることを示している。そして，その言語を話す人々は，それを分からない人々に対して内側と外側という理念的区切りを引くようになって，これはただちに集団の結束力とアイデンティティ形成の原動力をなすことになるのだと理解できる。このように考えると現在の朝鮮半島でおこっている言語的状況は非常に興味深い。

従来，朝鮮半島の人々は，地方による方言的相違を除くと，元には同じ言葉と綴字法（2 章参照）を共にした一つの言語共同体に属していた。しかし，資本主義と共産主義という敵対的なイデオロギーによって二つに分離され，隔離され，半世紀以上別々な社会的状況で異なる生活を営んできた。従ってそれぞれの言語使用に独自性が生じてしまい，二つの集団の間に言語相違が見えるようになったと思われる。もし今のような隔離の時間が持続すればするほど両集団の言語の格差はどんどん深まっていくことは当然であり，いずれか朝鮮半島にもスカンジナビアで観察されるような言語的状況が現れるかもしれない。おそらく今日 SK・NK の隔離状況は，二つの個別の言語共同体の生成プロセスの初期段階の理

想的条件を満たしていると思われる。

ところが，どちらの側にせよ，今日，朝鮮半島に住んでいる大部分の人々は，統一を願っている。民族統一は韓民族の宿願であり，SK と NK のどちらの政府にとっても第一の課題としてみなされている。

統一への念願は SK・NK ともに国語教科書でも強く現れている。

「우리 국민은 누구나 통일을 원하고 있습니다.」
(我々国民はだれもかも統一を願っている。)（SK 6 年：筆者訳）

「현재는 통일이 이루어지기 어려운 것처럼 보이지만, 언젠가는 통일이 꼭 이루어질 것이다.」
(現在は統一が難しいように見えるけれど，いずれかは，統一は必ず成り立つはずである。)（SK 6 年：筆者訳）

「우리 나라는 반드시 통일되고야말것입니다.」
(我が国は必ず統一されてしまいます。)（NK 3 年：筆者訳）

「오늘 우리 인민에게 있어서 미제에 의하여 강요된 민족분렬의 비극을 끝장내고 조국을 통일하는 것보다 더 중요하고 절박한 과업은 없습니다.」
(今日我々人民にとって，米帝（米国帝国者:筆者）に強いられた民族分裂の悲劇を終えて祖国を統一することより重要で切迫した課業はないです。)（NK 5 年：筆者訳）

また，現在 SK で行われている「北韓研究」でも統一への希望は共通的命題として言明されている。

「우리의 염원인 국토 통일에 앞서서 ……」
(われわれの念願である国土統一に先き立って……)（キム・ウンモ 1999：筆者訳）

「我々が南北の言語問題を深刻に考慮し論議する理由は，究極的には分断克服の一助となると期待されるからである」（高榮珍 2000）

「이러한 격차의 극복을 위한 노력은 통일을 향한 준비 과정의 하나로……」
(このような格差の克服のための努力は統一に向かっての準備過程の一つである……)
(リ・ヒスン 2001：筆者訳)

しかし，統一がまだ不確実な未来としてしか見えない現在，我々にとって大事なのは，まず分断された二つの国の社会的，言語的実状を正確に理解することであると考えられる。

2．SK・NK の社会・文化比較

リ・キョンスク（1999）は「社会文化」を「社会の中で伝えて受け継ぐ思考体系と行動様式を含む全体的な生活様式」と定義して「ある社会体系が維持されていることは，その社会が共通的価値規範と文化様式を普遍的に受容していることを前提している」と述べている。NK 社会は，固有の哲学的世界観である「チュチェ」思想に立脚して設定された社会文化であり，つまり社会主義的動員体制による「自力更生」の「チュチェ」思想[4]の影響によって，非常に閉鎖的で画一的な社会文化の特性を持っている。一方，SK の社会は，民主主義的価値に根拠した多元主義文化，資本主義の発達過程で現れた商業主義的大衆文化，軍部クーデターの経験と分断の現状による権威主義的軍事文化，そして縁故主義的社会文化[5]がその特徴であると述べている。

表２：SK，NK の社会文化の対照（リ・キョンスク 1999）

SK	NK
・産業化とともに発達している市民社会	・世襲政権下の臣民社会
・個人の自立性を重視する個人主義文化	・反個人主義と社会政治的生命体論[6]に根拠する画一的な集団主義
・国際化・世界化の論理下の解放文化	・「チュチェ」思想だけを唯一な真理として信じさせる極度的な閉鎖文化
・民間次元で行う自立的で独自的な多様な文化運動が発展されつつある多元主義文化	・金の教示たけが一元的価値をなす教示文化
・超階級的な大衆文化	・プロレタリア階級の独裁体制を志向する階級文化

しかし，理念的格差によって，異質化された社会の深層的次元には，まだ部分的に同質性が残っていて，その一つは伝統社会の固有な文化様式，つまり，日常生活の習慣，衣食住及び冠婚葬祭や祝祭日，風習，建築様式などであり，もう一つは伝統的儒教的価値であると言っている。儒教的価値規範は依然と SK・NK 社会文化の特性を規定させる要因として残っていて，例えば，儒教の中心価値規範である「孝」は，両者において保つべき重要な美風良俗として見なされている[7]。特に，NK の場合，「孝」は父子世襲の体制を構築する過程で最も必要な徳目として見なされていると述べている。

リの見解は，SK・NK の社会を比較する際，一般的で典型的に浮かび上がる社会イメージの対比であるような感じがする。しかし，あまりにも SK の社会を理想化し過ぎているとも言える。たしかに，現在の SK 社会は民主主義を基盤とした市民社会・文化を目指して成長しつつある。しかし，忘れてはならないのは SK 社会が軍部の独裁的政権から解放されたのはここ 15 年ぐらいであり[8]，「文民政権」が始まって以来の試行錯誤の中では，SK 社会に熟成した真の個人主義文化や市民社会が根づいたとは言い難いと思われる。

2.1　変動する SK 社会

1980年代に入って SK 社会はあらゆる場面で急速に変わってきた。特に，イデオロギーの面ではその変化は凄まじい。又，最近活発に行われているキム・ジョンイルの和解外交も NK の社会の変化を仄めかしているようにみえるが，実際 NK 社会の内部の事情が何も分かりえない現状では，NK 社会の変動についての言及はできないだろう。

従来の SK 社会の「支配ディスクールの核をなしたのは『愛国心』であり，これは『反共』という競争的で，敵対的，否定的な理念の設定を通じて『統一』意志に帰結されてきた」（リ・ビョンヒョク 1998：31）と言われている。しかし，今日の SK 社会での反共主義は「これ以上支配的なディスクールにはなれない。(……) 他の諸社会的問題を無力化してきた激烈な情緒的反共主義は消えて行きつつある。社会主義圏の崩壊後南韓の経済的・政治的優位が立証されたと信じられた時から北韓を『意識』する強度が顕著に弱まって来た」（グォン・ヒョクボム 2000：36）と言われる。急速な経済発展とともに膨張しつつある市民社会の台頭，また 1990 年以後，ソ連及び東欧圏での社会主義崩壊と SK･NK の間の経済的格差の拡大は，SK 社会の反共産主義意識をかなり弱体化させたと思われる。このような変動の時期に衰退した反共産主義支配イデオロギーに対し，代置物として浮上したのが私的領域に属する大衆媒体，教会，労組，またはスポーツ界などであり，それによって SK 社会の大衆文化的様相が加速化している。つまり，いままで反共産主義の理念によって組成されてきた共同体心理が大衆媒体によって操られる群衆心理に変移され，いざとなった時，群衆間の感情的一体化が生じ易い社会的雰囲気が出来上がってしまったとも考えられる。2002 年のワールドカップ大会で，世界を驚かせた SK の人々の民族主義的熱気は以前の反共産主義の狂気にまさるものであるとは言えないこともないだろう。

3．SK・NK の言語政策比較

「言語政策（language policy）というのは，国や地方の政府，国連などの公の機関が，特定の言語の使用または禁止について，標準語とその正書法について，教育の現場で使用する言語または教育すべき言語など，言語に関係するさまざまな事柄を，公的な立場から決めることを指す」（田中幸子 1994：166）。

あらゆる社会的変革が言語政策を伴うのは，言語に「支配イデオロギーの変化」を反映させることだけではなく，「言語変化」によって「人間の意識及び行動を変化」させようとする考えが作用するからである（リ・ビョンヒョク ibid.：325）。

朝鮮半島を日本社会に変革しようとした日本植民地政府の「朝鮮語抹殺政策」がその一例である。解放の後，朝鮮半島の社会全般で猛烈に起きた国語浄化運動も植民地文化の残存を根絶させようとする社会改革の一つであった。また NK の「文化語運動」は共産主義社会変革を目指して行われている積極的な言語政策であると言えるだろう。

SK と NK の間の言語格差の根本的な原因の一つは，両側の言語に関する基本的な考えと

政策が異なっているからであると言われている（リ・オクリョン1999：253–254）。

SKの言語政策の中心論議は「ハングル専用の問題，綴字法の問題，分ち書きの問題，標準語及び外来語の表記の問題」など，主に「文字政策や国語純化」（コ・ヨングン ibid.：8–27）に関わるものである。

国語純化運動は「植民地時代の残存物の日本語と外来語からの国語汚染に対処するため，1980年代からは『国語研究所』を設立して国語問題に公式的対処」（リ・ビョンヒョク1998：337）をするようになっている。

SKでは解放後，1930年代にジュ・シギョンらによって定められた，綴字法などに関する「統一案」に基づいた語文生活をしていた。1980年代に入ってから今まで通用された「語文規定」，つまり話しことばと書きことばの規範に修正を加えると同時に「国語ローマ字表記法」「外来語表記法」を制定した。また「ハングル綴字法」「標準語規定」などを改正公布した。このようにSKでは「語文規定」に関する改正が1回しか施行されていないことに対して，NKでは1948年の「朝鮮語新綴字法」，1954年の「朝鮮語綴字法」，1966年の「朝鮮語規範集」そして1988年再び公布した「朝鮮語規範集」まで4回の改正を断行している（リ・オクリョン1988：254–255から参照）。

これについてリ・オクリョンは「つまり，NKは「語文規正」の改正を繰り返しながら1960年代にキム・イルソンの教示による『語彙整理運動』を根幹にする『文化語運動』を起して南北間の言語格差を深めた」（1988：254）と指摘しているが，この点については同じSKの言語学者の間にも異なった意見がある（5.2の高榮珍2000参照）。

「文化語運動」は1960年代から展開されたNKの「言語革命」である。1966年に行われたキム・イルソンの教示によって「朝鮮語の民族的特性を正しく生かす」ために「政治・経済・社会・文化・軍事などのあらゆる方面にわたって革命の戦略が行われている首都ピョンヤンの言葉を中心に言語の民族的特性を保存・発展」することをめざす言語政策，つまりピョンヤンの言葉を中心に語彙を整えて，NK式の標準語を拡充・普及することを目的として行われたのが「文化語運動」である。このような言語運動の思想的基盤をなすのは，「我が言葉を整理して発展させる」という「国語純化理論」つまり「チュチェ言語理論」なのである（コ・ヨングン ibid.：45–53 参照）。

NKの言語政策の主をなすのは，民族語教育強化，勤労者の文盲退治，漢字廃止，民族語の主体的発展と語彙整理，言語生活気風の確立，言葉と，文字の規範性の定立，文字改革，南朝鮮の言語問題（コ・ヨングン ibid.：27–52参照）などである。その「政策の綱領」はSKより「明確にあかされている」（コ・ヨングン ibid.：128）と言われている。

4．SK・NK教科書政策の比較

学校教育が「伝達される経験」（mediate experience）を通じて知識を生ずる企みであるなら，教科書は「伝達される経験」そのものである。従って，伝達のメディウムとして教科

書は，学校教育において分離して考えることができない必然的なものである（Scinto 1985：210）。

また,「教科書にどんな内容が含まれて教えられるかは次世代の世界観や人生観に大きな影響を与える」。そのため，教科書の内容は常に公衆の鋭敏な関心の対象になっている。

教科書の内容と構成は教科書政策と密接な関係を持っており，また教科書政策はその社会の政治・社会構造・教育政策，学問の発達などの多様な要因に影響されている。「韓国教育開発院」のジョン・ジェゴルは，教科書政策においての国家介入の程度は支配階級の知的・道徳的指導力の包容の範囲を示していると言っている。つまり支配階級のヘゲモニーが確固たるものであると見なされる時，教育過程と教科書編纂に対しての包容の範囲がより広くなり，学校での教育内容選定に対しても柔軟性が見られる。その反面，支配階級の知的・道徳的指導力が貧弱の場合は，教育政策全般に対する国家の統制はより強化されていると述べている（ジョン・ジェゴル1988：137）。

どんな図書を教科書として認めるか，誰に教科書を開発させるか，などの認定の問題から発行，供給までのプロセスの方法を定めるのが教科書政策であり，このプロセスが国家の管理下におかれることを国定教科書制度と呼ぶ。その反面，教科書の著作と発行に国家的統制規定がなく，一般著者と出版者によって発行されることを自由発行制度と呼ぶ。日本の教科書は検定制によって著作，発行されている。つまり，高等学校の実業教科書の一部や特殊教育学校の教科書を除いたすべての教科書は，一般著者と出版者によって執筆・編集され，文部省の検定を経てから教科書として発行される。米国，英国，フランスなどの国では，伝統的な意味での教科書に対する依存度がどんどん弱くなりつつある。従って，これらの国では教科書の製作と発行を一般著作者と出版者に広く解放する，自由発行制度によって，競争による質の高い教科書の産出を目指している。

SK・NK は，両方とも国定教科書制度を採択していて，一つの教科に一種類の教科書しか許容していない（カク・ビョンソンら1986参照）。

4.1　SK の教科書[9]

SK では，1954年の第 1 次教育課程の改定以来，1998年の第 7 次教育過程の改定まで，7 回の教育課程の改定が行われている。それに伴って教科書の内容や形も次々と変わって来たが，政府管理の国家中心的教科書政策制度が保たれている。法律的には，国定制と検定制を根幹として部分的に認定制を認めている。国定制の 1 種図書は文教部（文部省）によって直接編纂・発行されている，検定制の 2 種図書は，一般制作者が出願した図書を一定な基準によって審査され教科書として承認される。

第 7 次教育課程改定によって再開発された教科書は，国家で発行する 1 種図書が検定の 2 種図書より絶対的に多数である。1 種の国定図書には国家が無償で分配する小学校の教科書と，検定の申請がほとんどない特殊学校用の教科書及び高等学校の専門教科書が大部分である。特徴的なことは，中・高等学校の「国語」，「国史」，「道徳」教科書が 1 種の国

定であることである。

第 7 次教育課程改定に伴って新しく開発された教科書には以下の特徴が見られると報告されている（第 7 次教育過程の理解のための参考資料：教育人的資源部提供資料 http://www.kotri.re.kr/journal/38/article23.htm）（筆者訳）

・易しく，面白く，親切で活用し易い教科書
・自己主導的能力と創意性伸張に適合な教科書
・「執筆実名制」の導入を通じた質高い教科書の開発

学校授業での教科書の位置は，教育内容を提示する唯一の資料として授業のほぼ全般が教科書に依存しており，なお入学試験およびあらゆる教育評価の基準をなしている（カク・ビョンソン 1986：89）と指摘されている。このように SK の教科書は，その編纂の過程から採択，普及にいたるまでその権限が国家に集中されていると同時に教育内容の唯一な資料として学校教育のなかで絶対的位置を占めている。

4.2 NK の教科書

NK の教育過程の開発は，徹底的に中央集権的方式によって進行されている。教育過程は党と首領の教育指針がそのまま反映されていて，教科書は国家が規定する公式的教育内容が載せられているため，絶対的権威をもつ教育資料である。すべての教科書は国定教科書であり，一つの教科に 1 種類の教科書しか許容されていない。

教科書の叙述方法には特徴があって，数学と科学教科書以外のほとんどの教科書は，冒頭に「キム・イルソン」または「キム・ジョンイル」の教示を引用することから始まっている。教示は教科書の冒頭に提示されるか，各課の冒頭または内容記述の中間に提示されたりする。教示の引用部分は目立つようにボールドやゴシックの活字で書かれている。教示の内容は，新しい理論または金父子だけがもつユニークなアイデアというより平凡な事実や主張を強調する内容でしかない。しかし，平凡な事実であるとしても，この教示を根拠にして内容を展開させていく。

このような方法は「思想教育の基本的な方法の一つは肯定的模範で感化させること」という社会主義教育テーゼを根拠にしているが，NK では，キム父子を肯定的模範の対象と設定して，彼らの思想と行動に従って学ぶようにすることによって，キム父子への尊敬心を覚醒させる偶像化教育に直結していると言われている。

5．言語格差に関する先行研究

SK・NK の言語は「語彙，発音，綴字法，分ち書き，意味，造語法，文体，話法，などの面で差異が見える」（リ・オクリョン 1999：253）と言われている。SK・NK の言語の差異を探る大部分の研究はこうした側面の相違点を明らかにすることに専念してきた。主な

先行研究を紹介することにしよう。

5.1 『통일대비 남북한어 이해』（統一対比南北韓語理解）（キム・ウンモ，チェ・ホチョル1999）

キムとチェは，「南北言語で最も異質化されていて，統一後にも（両側の人々の間の）意思疎通に大きな差しつかえが生じることが懸念されるのが語彙分野である」と述べ，NKの辞書と在日朝鮮総連発行の小学校国語教科書を用いてSK・NKの言語の相違を検討している。

彼らは，NKでは1966年以後，語彙整理事業を積極的に進めてSKの「標準語」に対して，ピョンヤンを中心とした「文化語」を制定して，以来言語整理運動と文化語運動を汎国家的次元で展開することによって，SK・NKの間に大きな言語格差をもたらしたと言っている。

NKでは，文化語運動の核心は，漢字語と外来語を整理して固有語を活用するとともに，方言を捨てて「NK式標準語」である文化語使用を強調することである。そしてこのような言葉整理運動によって整えた語彙は5万語に至った。これらの語彙は1986年10月にNKで発刊された『整えた言葉』に収録されたが，1992年発刊された『朝鮮語大辞典』では2万5千語しか残っておらず半分以上が廃棄されたと報告されている。

彼らはSKの標準語とNKの文化語の語彙的相違点を，文化語を中心にして4つの形に分類している。

I. 異形同意語：異形同意語：SK・NKの言語格差を最も大きくさせた語彙群。言語整理によって生じた新造語や音韻法則の差異，また文法規範の差異によって相違が生じた言葉。

II. 同音異義語：SK・NKの人々の間の意思疎通に最も障害が生じやすい言葉であると思われる。特に，NKの社会制度，政治用語，共産主義思想などに関する語彙には既存の語にNKの「チュチェ」思想と革命の内容を付与された言葉が多いことで格差が生じるのである。

（例）　경애하다 kyeongaihada（敬愛する）：SKでは「敬して愛する」の意味で使われているがNKでは「最も尊敬して最も親近な心で仰いで仕える」の意味でキム父子をほめたてる時のみ使用される語。

III. 新しい意味を持つ語：語の本来の意味に革命的概念が付与されることによってSKとは異なった意味が付与された語。

（例）　일당백 ildangbaik（一当百）：一つが100に勝ち抜く。どんな敵もうって退けることができるように政治思想的，軍事技術的力を育とうとする革命的で戦闘的気性。

IV. 新しく作られた言葉：新造語は共産主義社会建設に必要な政治・経済・社会に関す

る語彙であり，SK にはない語である。

（例） 후비대 hubidai（後備隊）：今後一定の組織の成員を補充したり任務を受け継ぐため準備している隊伍。

我々も，実際この分類に準拠して NK の教科書から SK では使用しない語，つまり NK の教科書でのみ出現している語と NK 特有の言葉表現を集めた108例を分類した（6 章参照）。

5.2 「分断と言語問題研究序説」（高榮珍 2000）

高は SK で「南と北の言語に言及する時には，必ずといってよいほど顕著にみられる次のような議論は，批判されなければならない。それは，南北の言語はかなり異質化しており，その主犯は『チュチェ思想』を基盤とする北朝鮮にあり，『文化語』の登場で両者の言語が完全に別の言語になってしまった，というものである」と指摘する。彼は言語相違の責任を NK の「文化語」に問おうとする SK 言語学界の一般的な議論のように，NK の綴り方の改正が言語異質化の主犯でないことを裏づける一つの例として韓国語の綴り方の原則を明らかにしている。

現在 SK･NK で採択しているハングル綴字法は，日本から解放の前の1933年の「朝鮮語学会」によって制定された「ハングル綴字法統一案」に定められているものを基礎にしている。この綴り方は標準語を発音の通りに書くことを原則とするが，単語で同じ意味を持つ単語はいつも同一の形態で表記するとする形態･音素的原理を基本としていると言われる。

次は SK・NK の綴り方の原則についてのコの説明である。

> 朝鮮語の「닭（talk）」（鶏）という単語はそれが出現すると音声的な環境により，「달기（talki）」（닭이，鶏が），「닥–도（takto）」（닭–도，鶏も），「당–만（tangman）」（닭–만，鶏だけ）のように，各々「닭，닥，당」と発音される。このような現象を文字で書く時には二つの方法がありうる。1 つは発音どおりに表記するものであり，この書き方では発音に従いそのまま文字に移せばよい。もう 1 つは，音声的な環境に関わりなく「닭」という原形を明確にしながら表記する方法である。この方法で書くためには，ハングル字母を習得するとともに，そのように書く原理も別途に習わなければならない。前者の方法は，発音どおりに書くため，我々はそれを「表音主義」と呼び，また後者の方法は形態素の原形に従って書くため「形態主義」という。（高榮珍 ibid.：481–482）

SK・NK は共にこのような形態主義を綴り方の原理として採択しているが，問題は，この形態素が場合によって音価の変化を顕著に引き起こす際に，この原則の適用がそうたやすくはないと述べている。このような原則の適用が SK･NK の間で異なって行われる場合，両側の綴り方の相違が生じることになる。

以下のような頭音法則の適用と不適用による綴り方の差異はその代表的例である。

SK の綴り方は頭音法則を反映して，「여자 yeoja（女子）」「남녀 namnyeo（男女）」のように，発音と表記の間の乖離を避ける。
反面 NK では頭音法則を適用しないので「녀자 nyeoja（女子）」「남녀 namnyeo（男女）」「류행 ryuhaeng（流行）」「교류 kyoryu（交流）」のように書く。

頭音法則以外にも母音の下で発生する平音の濃音化現象の表記，一部の用言の活用形で連結語尾の表記法などで SK・NK の間に綴り法の差が見える。

彼は，また NK の辞典での字母の配列順序が SK のそれと異なっていることに関して，NK では理論的に合理的な処理を，SK の辞典では長年の慣例を尊重しているといい，どちらの処理が望ましいかは現時点では断言出来ないと言っている。

「文化語」運動に関しても語彙整理事業は，日本語や漢字語を時代の要求に合う固有語に新しく直すことなど，NK 語の民族的特性を活かすための重要な方途であり，また新しい社会主義体制にふさわしい新語が必要であったことで,「北朝鮮で語彙整理に本格的に手をつけたのは，決して南北言語の異質化が目的ではなかった」と評価している。

5.3 「북한의 문체」（北韓の文体）（キム・ヨンジャ 1998）

この論文では NK の書き言葉に見られる文体的特性が研究されている。

キムは「文体」を地域，時代，社会的階層による，またその文章の作成目的や作者の個人的特性による独特な特性と定義する。そして，分断以来，互いに異なる社会体制の中で断絶した言語生活を営んできた SK・NK の文体の間には，相当な格差が現われるのは当然であると述べている。彼女は NK の子供用の愚話，随筆，新聞の報告文，そして新聞社説などを分析資料として，NK の文章でみられる文体的特性を以下のように説いている。

NK では文学作品と新聞の社説のようなジャンルが顕著に異なる領域の間においても，その文体上の類似性は驚く程強いが，それは作文のあらゆるジャンルに，いわゆる文化語文体論が作用しているからである。文化語文体論の核心は，文章の作成において一般大衆が多く使用する語彙を選び，簡潔で容易に理解できる表現方式を使用することである。また，表現においては呼び掛け，感情，情緒性などを高く評価する。従って，あらゆる文章で政治性が目立つと共に，感情的な呼び掛け，煽動的表現や修飾語が多く添加されているため，文章が長くなる傾向が見られる（キム・ヨンジャ ibid.：155）。

キムは NK のあらゆるジャンルの文章で見られるこのような文体の硬直性はそのまま思考の硬直性に繋がって，結局，NK の学問的発展の障害にならざるをえないと説いている。

6．小学校国語教科書で現われる言語相違の現状

6.1 資料

資料はSK・NKで，現在，使われている小学校の国語教科書であり，出版年度は，SKは2000年，NKの教科書は1990年から2001年の間に刊行されたものである。

SKの小学校国語教科書は1学年，前学期と後学期の学期ごとに「読む」「書く」「話す・聞く」の3冊にわけられている。1年間で6冊の本を使うわけである。

NKでは，1学年の教科書は1冊にまとめられている。1冊の教科書のページ数はSKは平均153ページ，NKは平均126ページである。本の編集はSKの場合，絵や写真，図などの内容に伴う二次的資料に半分以上の紙面が使われている。NKの教科書は時々挿絵がのせられているもののほとんどの紙面は文字で埋め込められている。

6.2 「片側通用語」[10]

50年間の隔離の間，SKとNKのことばには，お互いに共用していない，つまり一方の社会のみ通用する語が数多く生じている。これらの言葉を両者の「片側通用語」と呼ぶことにする。SK出身である筆者にとっては，教科書に現われるNKの「片側通用語」を取り出すのは容易であるが，その逆は相当困難である。このような作業には母語話者の直感が必要であると思われる。そのためSKの「片側通用語」は，元NK人であったある脱北者（最近NKから逃げ出してSKで定着した人のSKでの呼び方）が出した『北韓住民が知らなければならない南韓語彙3300個』という本を参考にした。

(1) NKの「片側通用語」

NK教科書の語彙の中でSKでは使用しない語として96例が抽出された（音韻体系の相違によって綴りの異なる語はここでは取り扱わない）。その中でキム・ウンモの分類（5.1参照）の「異形同意語」系の語の数が圧倒的に多かった（89例）。キムはこの類の語がSK・NKの言語格差を最も大きくさせる直接的原因になると言っている（キム・ウンモ ibid.：302）。

これら「片側通用語」を品詞別に分けて，その内容を調べた。

①名詞類が42例で最も多い。これらの名詞は，その語彙の起源と内容によって，4つに分けることができる。分野ごとにいくつかの語を例として取り上げる（言語構造に関する詳しい説明は5.1のキム・ウンモを参照）。

・異形同意語

―文化語運動の一環であった言葉整理などによって産まれた新造語類：다층시리카트벽돌집（tacheungsilikateubyeokdoljip：多層シリカト煉瓦屋：アパート），원주필（wonjupil：円珠筆：ボールペン），시창（sichang：視窓：車のフロントウィンドー），직승기（jikseunggi：直昇機：ヘリコプター），일당백（ildangbaek：一当百：一つが百を対応する：独りの人が百人の敵を対敵する意味），작식대（jaksikdae：作食隊：

炊事を担当する隊)

—外来語類：씨리카트（sirikateu：建築資料の一つ)，싸창（ssachang：モーゼル拳銃の中国語)

—文化語に受容された北部地方の方言：멀기（meolgi：大きな波)，탕개（tangae：縄を引き締める時使われるもの：緊張感)

—派生語（派生語，合成語の造語法において接詞の結合や語幹合成による造語がSK比べ高い生産性を見せている。キム・ウンモ ibid.:307)：요구성（yoguseong：要求性：要求する主張な性質)，영웅성（yeongungseong：英雄性：英雄的な品性)，화목동（hwamokdong：和睦童：和睦を持ち込む子)，충성동（chungseongdong：忠誠童：忠誠を持ち込む子)，효자동（hyojadong：孝子童：親孝行をする子)

・同形異意語

사업（saeop：事業（SK)：社会的に有益で必要なことをするために一定な目的と計画を持って組織的に進行する仕事（NK))，신심（sinsim：信仰心（SK)：確り信じる心（NK))

②動詞，形容詞類（30例)

表３：実例Ⅰ

	NK	SK	意味
使役形と受動形を作る方法の相違	바래우다（baraeuda) 말리우다（malliuda) 묶이우다（mukiuda) 채우다（chaeuda)	바래다주다（baraedajuda) 묶이다（mukida) 말리다（mallida) 차이다（chaida)	見送ってやる 乾かす 絞られる 満たされる
派生語・合成語の相違	미워나다（miwonada) 타번지다（tabeonjida) 가열해지다（kayeolhaejida)	밉다（mipda) 타다（tada) 가열되다（kayeoldoeda)	憎かったです 燃える 加熱される
北部方言[11]	아츠럽다（acheureopda) 조련치않다(joryeonchianta)	위태롭다（witaeropda) 좋지않다（jochianta)	ひやひやしい 良くない

③副詞類（25例)

表４：実例Ⅱ

	NK	SK	意味
北部方言	망탕（mantang) 제꺽（jekkeok) 지내（jinae)	마구（magu) 재빨리（jaeppalli) 별로（byeollo)	むやみに 素早く あんまり
擬態語・擬声語	허궁（heogung) 도간도간（dogandogan) 쟁글쟁글（jaingeuljaingeul)	휙（huik) 소곤소곤（sogonsogon) 쨍쨍（jjaingjjaing)	物が宙に飛んでいく様子 ひそひそ じりじり

④NK特有の表現：文章の表現方法がSKの人には馴染んでいない，NK特有の表現。

“전술에 걸려 몽땅 녹아나고 말았습니다”（戦術に掛けられねこそぎ滅ぼされてしまいました：NK）→ねこそぎ解けられてしまいました（？）(SK の意味)
“생각을 고르다”（熟考する：NK）→考えを選ぶ（SK）
“감격으로 끓어 번졌습니다”（感激で沸き上がりました：NK）→感激で沸き広がりました（？）(SK)

(2)　SK「片側通用語」

SK 出身者として SK 語で書かれた文を読みながら，NK で使われていない SK の「片側通用語」を探し出すのは非常に難しい仕事である。そのためには，NK 人の言語感覚を持っていなければならない。『北韓住民が知らなければならない南韓語彙3300個』（チョン・ジョンナム2000）の語彙は，脱北者の筆者が SK 語を正確に理解するため 8 年間，SK の「生きている生活語」の中で NK 人に馴染んでいない語を新聞やテレビなどから取り出したものである。私はこの本の語彙の中から SK の国語教科書に出現している語を収集した。参考本の語彙のほとんどが名詞類であったため，収集した語も名詞類に限る。取り集められた語は38個の名詞である。

抽出された38個の名詞の中で，34個が漢字語（89％）であるのは，SK の新造語及び SK のみで通用する語彙のなかには，漢字語が大勢をしめることを示している。その反面，NK の「片側通用語」の名詞類の中，漢字語の割合は38％に留まっている。実際，『北韓住民が知らなければならない南韓語彙3300個』で扱っている3300個の語彙群も，漢字語64％，外来語27％，純粋な韓国語 9 ％の割合となっている。これは分断以後，両側で生じた新造語には，SK の方が NK より漢字語が多いことを示していると思われる[12]。

SK「片側通用語」には，職業や呼称に関する言葉（郵便配達人，公務員，長官，看護師，研修生，障害人，庶民）や一般市民の生活に関する語（月給，連休，小使い銭，勤倹，忌日，誠金，媒体，興行，また最新の新造語や現代社会の風習，また流行語（王女病，王子病，次世代，世態，核家族，コンビニ）などが大部分をしめている。SK で日本からの解放を祝う祝日として設けられた光復節（광복절）と標準語（표준어）などの語も NK では通用しない言葉である[13]。

(3)　両者の「片側通用語」の特質

これらの「片側通用語」は，NK の場合，教科書言語の全体の 1 ％程であり SK の場合はもっと少ないように見える（SK の「片側通用語」に関してはもっと詳しい分析が必要であると思われる）。しかし，これらの言葉は文脈を離れては意味をとることが非常に難しく，時には文脈の中ですら分かりにくいものもある。この意味で，両者の「片側通用語」は両側の人々の間のコミュニケーションに支障をもたらす第一の要因であると言えるであろう。また，このような「片側通用語」の数は分断の時間が長ければ長くなるほど増えると考えられるであろう。

両者の「片側通用語」群の各語を内容別に分類してみる，各々の分野の語彙使用から両

社会の現行の価値観を読みとることもできる。

例えば，呼称の語彙で，SK の「간호사 kannhosa（看護師）」や「집배원 jipbaewon（集配員）」また「장해자 janghaeja（障害者）」などの語は，従来の「간호부 kanhobu（看護婦）」「배달부 baedalbu（郵便配達夫）」「불구자 pulguja（不具者）」などの語が現在の社会風潮に合わせて見直しされた，いわゆる「politically correct」な言葉である。これは SK の社会で言語使用についての市民意識が発展していることを示唆している。

また，NK の「화목동 whamokdong（和睦童）」「효자동 hyojadong（孝子童）」「충성동 chungseongdong（忠誠童）」などの良い子供を称する称呼などは，今 NK の社会でどのような人間像が望まれているかが推測できる言語使用の例である。

人間活動・精神の分野の NK の「片側通用語」は，「신심 sinsim（信心）：金父子の教示を強く信じる」「탕개 tangae（タンゲ）：精神的緊張」「분공 bungong（分工）：組織の仕事をわけること，分けられた部分」「사업 saeop（事業）：社会に有益なことを計画的，組織的に行うこと，仕事」「총화 chongwha（総和）：ある仕事の進行状況を総決すること」などの社会主義的言葉，または「후치질 huchijil（フシジル）：植物の根元に土をかきあげる仕事」のような農業に関する語などが主流をなす。その反面，SK の「片側通用語」には，「공주병 kongjubyeng（姫様病）」「왕자병 wangjabyeong（王子様病）」（偉そうにふりまう女の子また男の子の態度を当て付ける流行り言葉），「가출 kachul（家出）」「불우 bulu（不遇）」などの現在の SK 社会の世態が投影されている言葉や「봉급 bonggeup（俸給）」「연휴 yeonhyu（連休）」「용돈 yongdon（お小遣い）」「흥행 heunghaeng（興行）」「편의점 pyeonijeom（コンビニ）」などの資本主義社会を反映する語が多く表れる。

生産物や道具の物の名に関しては両者とも外来語が混ぜられているが，その量と内容は NK と SK の間，大きい格差が見られる。そのため両者の教科書で出現する外来語を次の節で取り上げる。

6.3　外来語

外来語の生成や使用はあらゆる言語で現われる現象であり，それは他の国との絶え間ない文化交流に従った当然の結果であると言える。また，現在のような国際化の時代には，どんな国でも外来語の使用がどんどん増えていっても不思議ではない。しかしこうした点について SK では以下のような懸念の声も高い。

> 「近頃，我が社会にはいわゆる世界化の波に乗って日常会話にも英語を混ぜて使う傾向が増えつつあり，新聞などの大衆媒体でも英語の表記がありふれたことになっている。（……）我が言葉は日に日にその純粋性を失っていく」（コ・ヨングン 1999：165：筆者訳）

外来語の乱入から自国の言葉を守ろうとする国語純化は，SK・NK を問わず，言語政策の主要関心事である。国語純化運動は，そのターゲットを英語などから来た外来語以外に，

漢字語もその対象に含めている。しかし，中国からの外来語である漢字語の中には借用の年代があまりにも長かったため，固有語と紛らわしい語も多い。本研究で取り扱う外来語は，西洋文化といっしょに押し寄せた西洋の言葉に限る。

NK では，「わが言葉の純粋性を活かしてこれを発達させようとする意志が非常に強」く（コ・ヨングン1999：166），不可避の場合を除いては外来語の使用を自制し，自国語に代替する努力を積極的に持続していると言われている（キム・ヒジン1998：79–82参照）。

SK の国語教科書では外来語について，「わが言語に適切な言葉がないためそのまま受け入れる英語の単語」（小国語 4 年）と説明され，少なくとも教育の現場では国語純化のため外来語の乱用を警戒している。しかし，現在 SK 社会では，最新発明品や生活定着語，流行語にいたるまで数多い外来語が使用されている。このような SK 語を NK 側は「英語と日本語が混じりあったごちゃまぜの言葉であるので，もはやわが民族語としては認められない」（コ・ヨンジン2000：479）と非難しているそうである。

教科書言語の中の外来語の量は両者の間，大きな差がみえる。

SK の小学校の国語教科書に出現する外来語は地名，人名などの固有名詞（63個）を含めて251語で，NK の23語（固有名詞 4 個）に比べて外来語の語数が10倍を超える。

まず NK の外来語の内容をみる。

トン（単位）（NK では普通尺度などの単位は m，cm，g，kg のように記号で記されている），ホシモン，サムエル，ジャキー（教科書の物語に登場する宣教師などの外国人の名前），ヨーロッパ，スケート，スキー，ボール，クレヨン，マスク，バケツ，テレビ，アパート，バス，シリカト（建築材料），ペンキー，セメント，トラック，ピラー，パルチジャン，タンク，サッチャン（小型モゼル拳銃），プエブロ（1968年元山付近の公海上で NK に拿捕された米国の軍艦の名）などがある。そのなか，教科書単元の内容上の特性によって集中的に現われる外国人の名前を除くと，最も多く出現するのはバス（39回）で後はピラー（７），タンク（５），トラック（５），サッチャン（４）の順の，戦闘関連の語が目立つ。

SK の外来語の高頻度順位10位までの語（固有名詞を除く）には，メーター，テレビ，バス，コンピュータ，クリスマス，ロボット，アイスクリーム，アパート，ピアノ，ラジオ，がある。そのほか，ワールド・カップ，インターネット，ゲーム，キャラクター，ライオンキングなど，情報，娯楽，通信，スポーツ関連の外来語が多数出現している。また，国名，都市名，地名，人名などの固有語も多く，世界のあらゆる国の名や都市名が出現している。

まとめ

「言葉は生きている限り変化する」（田中1979：10）。50年近く，隔離状態で，別々の政治・社会共同体の中で言語生活を営んできた SK・NK には，両者の言語規範の相違による

もの以外にも，各々の社会自ら必要性によって変えられたり，作られたり，または自然発生的に生まれたりした言葉が数多く現れるようになった。

その結果, 同じ韓国語であっても, 両者の間で相互通用できない語が存在するようになったのである。一般的に，SK で南北言語格差を議論する際，その中心課題に置かれるのはこれらの言葉である。NK の書物に初めて接した時，まず「目障り」なことは，SK のそれと異なる綴り方，SK で通用されていない単語など，形式的に異なる語の存在であった。これは NK の人々にとっても，同様であると考えられる。むしろ言語変化のプロセスは，産業化，グローバル化に尽力している SK の社会の方がより速く進んでいるであろう。SK の教科書に出ている外来語の数（251 個で NK の 10 倍）やその内容（情報，娯楽，通信，スポーツ関連の語），また現在の SK の社会風潮によって見直された職業名や障害者に関する呼び方，今日の社会の風習や流行り言葉などがその実例である。これは NK で民族固有語の活用を核心とする「文化語運動」の一環である語彙整理運動によって新造語が生じる現象に相当することであると考えられる。そのため，SK・NK の言語相違の原因をもっぱら NK の言語政策や社会主義的言語観などに注目しているキム・ウンモ（1999）やリ・オクリョン（1999）などの見方は再考の必要があると思われる。

形態的相違また新造語などの NK にのみ使用される「片側通用語」の量（異なり語数）は，音韻的原理の適用の仕方の相違によって綴りが異なる場合の（「여자 yeoja（SK）／녀자 nyeoja（NK）：女子」のように「頭音法則」の適用・不適用による相違）ような比較的簡単な場合を除くと，NK の小学校の国語教科書の全体語彙のなかに 1 %程存在するようにみえる。これらの語は場合によっては，文脈を離れては意味をとることが非常に難しいため，両側の人々の間のコミュニケーションに支障を来す恐れがある言葉もある。例えば，「耳をすます」の意味を表わすために，SK では「귀를 귀울이다 gwi reul giurida」と言って，NK では「귀를 강구다 gwi reul ganguda」と言う。「귀울이다 giurida」と「강구다 gwi reul ganguda」とでは二つの単語が完全に異なった形態であるため，そのままでは相互理解出来ない言葉である。また，このような「片側通用語」や言語形式が異なる語の数は分断の時間が長ければ長くなるほど増えることが懸念される。

謝辞

この論文のため貴重な助言をくださった名古屋大学の藤村逸子教授と，忙しい仕事のあいだこの論文を読んでくださった名古屋商科大学の呉大換先生にこの場をかりて感謝の言葉を伝えたいと思います。

注

1. 朝鮮半島の言葉を SK では「韓国語」，NK では「朝鮮語」と呼んでいる。どの名称に合法性を与えるかは相当難しい問題であると思われるが，一応，本論の中の「韓国語」は，SK･NK 語を含む包括的意味の朝鮮半島の言葉として用いるようにする。
2. リ･ウンベク（ソウル大学教授，韓国語文会理事長）は朝鮮半島への中国文化の流入を紀元前 2 世紀頃

からと推定し，その時から固有語と漢字･漢文を併用する言語生活が始まりそれの蓄積が我が伝統文化を形成するようになったと述べる。その結果，漢字語は今日国語辞典の収録語彙の70％を占めるようになったと言っている（「ハングル世代のみなさんへ」2000：http://www.hanja-edu.com 参照)。

3. 言語抹殺政策は1937年から始まった植民地政府の「皇国神民化」の実践運動の一つ，「全生活の国語（日本語）化」として実施された（リ・ビョンヒョク1998：90)。
4. 「チュチェ」思想は現在NKで「少なくとも公式的な認知体系として全国民の意識を支配している包括的な世界観」であり「その理念体系に世界観・人間観・社会観がみな含まれているだけではなく，それが唯一思想として存在」する（李温竹1995：79）いわばNK社会の支配イデオロギーである。
   和田春樹は「チュチェ」思想を「人間は努力すればなんでもできる」「民族は自主的ではなければならない」「民族が自主的にあるためには必ず優れた指導者，首領が必要である」という3つのテーゼで帰着するが基本的に「首領がなければ，人間はその能力もフルに発揮できないし，民族も自主的にはなれない」とする考えが「チュチェ思想」であると言っている（和田春樹1999：121–128参照)。
5. 彼女は，伝統的縁故主義，血縁主義，地域主義はSK社会のあらゆる分野に蔓延していてSK社会の重要な価値体系をなしていると言っている。そして，これはSK社会に残存している伝統的な帰属主義の影響であると指摘している。
6. 「人民大衆が革命の自主的な主体になるためには，党と首領の指導のもとに一つの思想，一つの組織に結束されなければならない。（それによって）不滅の自主的な生命力をもつ一つの社会的政治的生命体になります」（キム・ジョンイル1987，和田春樹1998：150から引用)。
7. SKのある現職教師は，学校教育の中の儒教的価値規範に関して，「現存支配秩序の維持と国家権力への忠誠を誘導」するため「忠・孝教育と言う封建遺制が教育内容として学校で巧妙に教育されている」と非難している。彼がその例として当時の中学校の道徳教科書から以下のような部分を引用している。
   「時代と場所によって生活様式や思考方式が異なるため礼節の姿も変わっていく。しかし時代や場所が変わっても国家に対する忠誠，父母に対する孝行（……）礼節生活は不変である」（中学校3学年「道徳」1986：97–98）（ノ・ウンヒ1988：61–63）
8. SK社会の真の民主化は第5共和国が終わった1987年から始まっている。その時から「その間抑圧されてきた労働運動などの社会的問題が活発に再評価され，一般的な社会問題として取り扱われるようになった」（アン・チュンオク1999：238)。
9. SK・NKの現行教科書政策に関しては，1986年のSKの文教部（文部省）に出されたカク・ビョンソンらの報告書「교과서 정책 개선 연구（教科書政策改善研究)」と2000年提出されたハン・マンギルの報告書「북한의 교과 과정과 교과서 제도（北韓の教育課程と教科書制度)」をもとに情報を調べ纏めた。
10. 分析の際に，語の定義などのため，SK語は『大辞典』(1981，ソウル：三省出版社）を，NK語は『現代朝鮮語辞典』(1968，科学院出版社，朝鮮民主主義人民共和国発行)，また『南北韓語比較辞典』(チョ・ジェス1995，ソウル）を参照に用いた。
11. 北部方言が文化語に受容された語。
12. このような現象はリ･ビョンヒョク（1985）の教科書言語の研究でもすでに明らかになっていた事実である（4.2参照)。
13. 日本の植民地から解放されたことをSKでは「광복 kwangbok（光復)」と呼んでいるがNKでは「해방 haebang（解放)」という言葉を使っている。

参考文献

アン・チュンオク 안춘옥（1999)．「남북한의 매스미디어（南北韓のマスメディア)」『南北韓社会文化比較』所収，ソウル：叔明女子大学出版部

カク・ビョンソン，リ・ヒェヨン共著 곽병선，이혜영（1986)．『교과서와 교과서 정책（教科書と教科書政

策)』韓国教育開発院資料，ソウル
キム・ヨンジャ 김연자（1998）.「북한의 문체（北韓の文体)」『南北韓言語研究』所収，ソウル：図書出版パクイジョン
キム・ウンモ，チェ・ホチョル共著 김응모, 최호철（1999）.『統一対備南北韓語理解』ソウル：セジョン出版社
キム・ヒジン 김희진（1998）.「남북한 외래어의 표기와 사용실태（南北韓外来語の表記と使用実態)」『南北韓言語研究』所収，ソウル：図書出版パクイジョン
コ・ヨングン 고영근（1999）.『북한의 언어문화（北韓の言語文化)』ソウル：ソウル大学出版部
高榮珍（2000）.「分断と言語問題研究序説」『一橋論叢』所収，第123巻第3号
ジョン・ジェゴル 정재걸（1988）.「지식의 사적분화과정과 제도화된 지식으로서의 교육 과정（知識の史的分化過程と制度化された知識としての教育課程)」『教科書とイデオロギー』所収，ソウル:天地出版社
杉浦正利（2000）.「英語学習者コーパスと母語話者コーパスにおける相互情報量を用いた共起関係の比較分析」『名古屋大学におけるインターネット時代に適応した英語教育の環境整備』所収（名古屋大学言語文化部）
田中克彦（1979）.『言語からみた民族と国家』岩波書店
田中幸子（1994）.「言語接触」『入門言葉の科学』所収，大修館書店
チョ・ジェス 최재수（1995）.『남북한말 비교사전（南北韓マル比較辞典)』ソウル：トダム出版
チョン・ジョンナム 정종남（2000）.『북한 주민이 알아야 할 남한 어휘 3300개（北韓住民が知らなければならない南韓語彙3300個)』ソウル：JONGRO BOOKS
ノ・ウンヒ 노응희（1988）.「학교 교육에서의 교과서 내용 비판（学校教育においての教科書内容の批判)」『教科書とイデオロギー』所収，ソウル：天地出版社
ハン・マンギル 한만길（2000）「북한의 교육과정과 교과서 제도（北韓の教育課程と教科書制度)」『外国の教科書制度』所収，ソウル：教育人的資源部提供資料
ブリギッテ・シュリーベン＝ランゲ（1996）.『社会言語学の方法』原聖その他訳，三元社（Schlieben-Lange B, Soziolinguistik）
リ・ウンベク 이응백（2002）.「한글세대의 여러분들께（ハングル世代のみなさんへ)」『月刊ハングル＋漢字文化』所収，第40号，ソウル
リ・オクリョン 이옥련（1999）.「남북한 언어의 차이（南北言語の差異)」『南北韓社会文化比較』所収，ソウル：叔明女子大学出版部
李温竹（1995）.『北朝鮮の社会的研究』リ・ビョンス訳，三一書房
リ・キョンスク 이경숙（1999）.「남북한 사회문화의 특성（南北韓社会文化の特性)」『南北韓社会文化比較』所収，ソウル：叔明女子大学出版部
リ・ビョンヒョク 이병혁（1985）.「어휘론적 관점에서 본 남북한 비교연구（語彙論的観点から見た南北韓比較研究)」『韓国社会の変動と発展』所収，ソウル：ボムムン出版
――――（1998）.「일제하의 언어 생활（日帝下の言語生活)」『韓国社会と言語社会学』ソウル：ナナム出版
和田春樹（1998）.『北朝鮮』東京：岩波書店
Park N. S. (1989). Language purism in Korea today, in *The Politics of Language Purism*, ed. by Jernudd B, Shapiro M., New York : Mouton de gruyter.
Scinto L. M. (1985). Text, Schooling, and the Growth of Mind, in *Semiotic Meditation*, ed. by Mertz E, Parmentier R. J., London : Academic Press.
『새우리말 큰사전（大辞典)』（1981）．ソウル：三省出版社
『조선말 사전（現代朝鮮語辞典)』（1968）．東京：学友書房
『두산 동아 백과사전（ヅサンドンア百科辞典)』(kr.encycl.yahoo.com)

『朝鮮日報』ソウル